



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1933, 19(2): 159-162

ISSUE DATE:

1933-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184131>

RIGHT:

原著 竹林熊彦譯 四六版 本文二八四頁 附錄七八頁
七年十月發行 章華社 定價一圓七拾錢

米國の外交官たる原著者のThunder over Europeの九州
帝大司書官の麗筆を以て譯されたもの。先づ獨逸の現狀より
書起し獨佛關係を一瞥し畢竟佛蘭西の持つ恐怖心は神經衰弱
として「西部戦線に異狀なし暗雲は東部國境にある」と結び
波蘭よりバルカン半島・ロシア方面の興味深き國際關係を論
述してゐる。波蘭廊下を述べては、波蘭がダンチツヒを距る
十一哩のグデニアに大規模な築港を爲し、その高き出生率
と低い生活程度が東歐の獨逸人をして波蘭人に交代せしめつ
ゝある現狀を紹介し、更に上部シレジャ・リスマニヤ・東ガリ
シヤ等に於ける波蘭の活動を以て「征服地が海外でなく隣國
を犠牲として國境を擴張する帝國主義國家」と斷じてゐる。
次に南に移つてバルカンの小協商と洪牙利・アルバニヤ・勃牙
利等の對立を述べこれには又夫々現下の國際問題の一大焦點
たる伊佛の對立が背景となつてゐる。而してアルバニヤと伊
太利とはニカラグアと合衆國の關係と同じとし、アルバニヤ
とユーゴスラフ間を以て危機一髪の間としてゐる。附録は
マクレイの「小協商の史的展望」の譯で、崩壊せる境洪國後に
簇生した諸國間に存する小協商の起源・目的・活動を叙述し、
チエツコ・ユーゴスラフ・羅馬尼(或は波蘭)等の佛の勢力を
背景とする團結がマジヤール人・ハプスブルグ家・獨逸合併
論等に對する態度を興深く讀む事が出来る。全體として近時

物情騷然たる東歐・南歐の國際關係を明快に論斷したもので
此の方面の政治地理に關心を懷く者に甚だ都合よき參考書で
あらう。(尾山生)

雜 報

○バクー石油の現在

バクーはアゼルバイジャン共和國
の首府たると共に裏海隨一の要港にして、其地方の地下は悉
く石油であるといはれる。この市の基礎的住民は回教を奉ず
るチューロツクに屬し、革命前二十五萬に過ぎざりしに今日
では人口六十五萬となりソヴィエト第四位の大都市である、
古來土人は井戸を掘り石油を採取して之を利用してゐたが、
今日では同地で石油關係の従事労働者約六萬人に達し一晝夜
三萬五千噸の原油を産出しつゝあるのである。

石油地は南北の兩區に分れ、南は元ビビエーバツトと稱へ
たる所なるが、現在はスターリン區と稱しバクーの南方海岸
數キロの地にあり、此區はバクー市の北方十數キロの地にあ
りて、面積廣大、新しくレーニノスラーハーヌイ區といふ、
こゝがバクー油田の主眼で井塔林立壯觀を極め、就中スラー
ーハーヌイでは大なる一部落の民家を悉く他に移住せしめ、
その屋敷跡は無數のボーリングをやつてゐる、しかもこの地
から三〇%の産出あり、原油のまゝパイプ輸送にて黒海のパ
ツームに送られる。

バクー附近のみでなく、アブシロン半島は全體にわたつて石油脈があるので、新發見の油脈が多い、全體の井塔目下四千百基に上り、一九三〇年の石油産出は千七百四十噸と公表され、一九三一年度には千五百三十萬噸に上つた。

バクー石油の一半は裏海からアストラハンに送られ、他の一半はバツムに送られるが、タンク車とパイプの二つの方法によつてゐる、今ソ聯邦中の石油産地統計をしるせば左の如くである。

バ	ク	イ	六、三九九、九二八噸
グ	ロ	ズ	三、八二〇、〇〇〇
マイ	コ	ツ	一八五、二四九
エム	バ	ネ	一六七、六四〇
中	央	ア	四二、七四八
トル	ク	メ	七、七〇四
サ	ハ	リ	不明
ン			

この表に見る通り、バクーとグロズヌイが露國石油の主産地である。

○ジョホールの産業

マレー半島の最南端にあつて面積約七、五〇〇平方哩、其大部分は叢林で蔽はれてゐて、半島の他の部分よりも山岳が少い、其人口は凡五十萬で、マレー人は二十三萬五千人、支那人が約二十二萬人住んでゐる。

鐵礦は錫鐵石、鐵鐵土の類で一九三一年に約五十萬噸の鐵鐵を日本に送つた。

農産は護謨、コ、椰子、パイナップル、油椰子、タピオカ、アリカナツト、米、トバ根、珈琲、ガムビア、甘藷、野菜、胡椒の類であるが、ゴム、ガムビア、椰子の外。多くは地方で費消される。

ゴムを除く農産物の總産出額は一九三一年に於て約一千萬ドル、同年のゴムの輸出は二千萬ドルに達したが半島の總産出の約四分一にすぎない。

この州のゴムの植付面積は七十七萬エーカーで五十三萬エーカーは採集可能である。

牧畜では水牛三、五〇〇頭、牛六、五〇〇頭、豚二五、〇〇頭、羊三、〇〇〇頭、山羊五、〇〇〇頭である、地方で一九三一年に屠殺されたものは牛八一〇頭、羊及山羊二、九七九頭、豚二三、一九〇頭で、最後のものは支那人の所有である。牛はインド人、水牛は支那人及土人の飼育にかゝる。

漁業は海岸至る所に行はれ東海岸に日本人のトロールが活動しシガポールへ賣り出す、西海岸はモンズーンのために魚族が少い。

林産は木材と薪と木炭は勿論、籐や樹脂、チユーイングガムの原料たる野性ゴムが出る、但し木材は今から十五年もすれば恐らく枯渇するであらう。

○昭和七年度本邦對外貿易額

十一月末日迄全國總額は二十五億八百萬圓内輸出十二億三千七百萬圓、輸入十二億七千萬圓に達し入超三千三百萬圓である、前年よりも一割

四分の増額で、輸出に於て一億七千三百萬圓増、輸入に於て一億四千六百萬圓の増加で、入超は二千六百萬圓を減少した。昭和七年の國際貸借は輸出入額共に増加し、就中輸出は世界的不況に伴ひ國民購買力減退を見たるに拘らず輸入よりも輸出が増したために差引入超額は著減し、十一月迄の植民地を含む入超七千五百萬圓程度に止まつた、右は爲替安に基く貿易外收入の増加に依り大體補償し得られるものであつて、國際貸借は前年よりも一層の改善を見た。

何故に七年度に貿易が増進したかと考へると、同年上半年關稅改正又はインフレーションによる物價高の見越輸入の多かつたこと、即棉花、羊毛、小麥、鐵、石油等工業原料品の買入が特に多かつたこと、同年下半年期には爲替低落の影響で輸入市價が昂騰し、内地品の競争者と見るべき砂糖、銑鐵、銅鐵、洋紙、パルプ、牛肉、硫黃等の輸入手控へられた結果である。

滿洲事變や上海事件の勃發で排日貨が深刻化した上に米國の財界不振やら各國の關稅引上等輸出上の障礙が多かつたに不拘概して順調な經過を示し、同年下半年期に入つて輸入一巡と共に輸出躍進を觀るに至つた、これは本邦對外爲替相場場の低落顯著な上に國內物價が比較的低かつた結果である。

今主要國別輸出を見ると、對支貿易は時局の影響で綿織物や、精糖、紙、水産物等の輸入著減し、地方別貿易で中支那南支方面で輸出取引一時杜絶を見たるに對し北支方面で増加

を見たことは注目すべき點であり、滿洲國貿易は政局安定に伴ひ著々増進した。

對南洋貿易では地方購買力の減退に拘らず、フィリッピンを除くの外一般に増加し綿織物、人絹織物、雜貨輸出増進した、對印度貿易では輸入の棉花と鐵の減退したるに對し、輸出は一億五千五百萬圓で前年よりも六割六分の増加である、就中綿織物は綿布關稅引上の見越もあつて前年に倍加し六千六百萬圓に達した、對米貿易では同國の不況に拘らず綠茶、除蟲菊、罐詰、電球、雜貨の輸出が増加し生絲は四十一萬斤價格二億七千三百萬圓に達した、しかも棉花の輸入は前年に比して倍増したので差引七千八百萬圓の入超となつた、其他歐洲、アフリカを始め、南米諸國に對する輸出の増加したるは爲替安と、新市場開拓に關する官民努力の賜であつて、最近三ヶ年を通じ豌豆、小麥粉、鮭及鱈罐詰、綿織絲、人造絹絲、綿織物、人絹織物、除蟲菊、電球等が輸出の順調なる増加を見せてゐる點は注目すべき事實である。

○世界の原棉消費

一九三一年七月三十一日現在各種原棉の繰越高は千三百三十三萬九千俵で之を内課にすると米棉八百七十六萬八千俵、インド棉二百四十八萬一千俵、エジプト棉九十一萬四千俵、雜種棉百十七萬六千俵であるが、かゝる繰越しの大量は一九二一年以來の現象である、今この繰越高を便宜上一俵四七八ポンドに換算して一九三一年度の生産

と合せた供給高は左の如し。

	生産高	繰越高	計 俵
米 棉	一七、〇六、〇〇〇	九、三六、〇〇〇	二六、四二、〇〇〇
印度棉	三、四〇、〇〇〇	二、〇六、〇〇〇	五、四六、〇〇〇
エジプト	一、二七、〇〇〇	一、九四〇、〇〇〇	二、二一七、〇〇〇
其 他	五、四四、〇〇〇	一、〇四、〇〇〇	六、四八、〇〇〇
計	三、二六、〇〇〇	一、三六、〇〇〇	四、六二、〇〇〇

即ち一九三一—三二年度の供給高は四千百十四萬九千俵に上つたが、今年度の消費高を萬國聯合調査によると二千二百三十二萬三千俵である、これも同一單位に換算すると左の如くなる。

	供給量	消費量	過剰高
米 棉	二、四六、千俵	一、一〇〇、千俵	一、三六六、千俵
インド棉	五、四七、	四、〇〇〇	一、四七五
エジプト棉	二、七七、	一、五三、	一、二四五
其 他	六、四四、	三、七〇、	二、七四、
計	四、一四、	三、四三、	一、八一、

そこで右の過剰から消費見込百二十五萬俵を控除すれば残千七百五十萬俵は一九三二年七月末現在の繰越高である。

所が本年度の收穫豫想をみると合衆國農務局公表によれば千八百八十萬俵であるから其供給量は米棉二五、〇五〇、〇〇〇俵、其他一六、二〇〇、〇〇〇俵、合計四千百二十五萬俵とな

つて前年と大差がない、しかし優良棉は比較的少量で劣等棉の量が増大するといふことである。

○昭和七年十二月二十八日陸地測量部出版地圖

目録 (三)

五萬分一地形圖 修正	仙臺 六號 關山峠 一面
帶廣 十六號 幸震 一面	甲府 七號 甲府 一面
東京 二號 東京東北部 一面	
五萬分一地形圖 鐵道補入	
弘前 四號 田山 一面	
二十萬分一帝國圖	新竹 一面
五十萬分一與地圖 鐵道補入	名古屋 一面
百萬分一萬國圖	仙臺 一面
百萬分一東亞與地圖 修正	承德 一面

質疑應答

問 氷山に接近すると海水の温度が俄かに上昇する理由。(川越中學、櫻井)

答 海水の水結點は通常零下二度で、氷山の浮游する様な高緯度の地方では海水の温度は屢々零度以下である。然るに氷河から流下した淡水の水塊は温度が零度であるから之に接近した部分の海水は温度零度に近い。故に周囲の温度零下の海水の部分から氷河に向つて進めば温度は微測寒暖計に感ずる程度に上昇する。(H)